

下田まち遺産案内

6 そとうらかいがん 外浦海岸

外浦海岸は、須崎半島の付け根にある小さな入り江で、透き通った青い海と白い砂浜のコントラストが大変美しいです。海水浴はもちろんのこと、シーカヤックを楽しむ方も大勢訪れます。沖合いには筆島や大小の岩礁が点在し、岩場では磯観察等ができます。また、10月になると地域住民の手で砂防柵を作成・設置し、冬の風物詩になっています。



上写真 海水浴シーズンの外浦海岸。
下写真 砂防柵が設置された冬の
外浦海岸。



9 しもだごばんしょあと 下田御番所跡

御番所(船改番所)は、江戸往来する全ての船の検問が行われた海の関所で、寛永13年(1636)から享保6年(1721)までの間、大浦に置かれました。御番所によって下田湊は「出船入船三千艘」と伝えられるほどの賑わいをみせ、下田町は経済的、文化的に大きく発展しました。下田のまちが日本中に知られた海上交通の重要地点であった記憶を今に伝える場所として、下田まち遺産に認定させていただきました。



上写真 御番所跡に立つ案内看板。
下写真 御番所跡の現在の様子。



7 はりすのこみち ハリスの小径

ハリスが駐在していた玉泉寺が近くにあることから名付けられました。小径からは穏やかな海に多くのレジャーボートを眺めることができ、ゆったりとした時間を感じられます。さらに夕暮れ時にはオレンジ色の光が海面を照らし、まるで光の絨毯の様です。また、小径沿いには、旧海軍の石炭積み出し桟橋跡や特攻艇の格納庫跡があり、戦時中の悲しい記憶も含めて後世に伝えていきたいものとなっています。



上写真 海軍の石炭積み出し桟橋跡。
下写真 ハリスの小径からの夕景。



10 べいさいどろむなード ベイスайдプロムナード

プロムナードとは、フランス語で「散歩道」を意味します。このベイスайдプロムナードは、入り江沿いに潮の香りを楽しみながら、豊かな海を体感できる下田らしい場所です。途中には休憩所が整備されているため、歩き疲れた時は腰かけて、海上に行く遊覧船を見ることがもできます。観光客や地元住民に親しまれている散歩コースにもなっています。



上写真 整備された休憩スペース。
下写真 ベイスайдプロムナードから
の海景色。



11 わかのうらゆうほうどう 和歌の浦遊歩道

和歌の浦遊歩道は、大海原を手の届く距離で感じられる遊歩道です。歩いている最中、海側では透き通る海水や多様な岩を眺めることができます。山側にはこんもりとした緑の山々があり、自然の豊かさを肌で感じることができます。そのため、観光客が多く訪れ、市民が散歩やジョギングを楽しんでいる場所でもあります。



上写真 遊歩道近景。
下写真 遊歩道遠景。



13 おおうらかいがんいしとうろう 大浦海岸石灯籠

昭和5年頃、当時の下田町は鍋田に東京文理科大学(現 筑波大学)を誘致するため、それまでであった循環道路(下田湾~大浦湾)に、大浦と鍋田を繋ぐ接続道路を建設しました。それにあわせて、下田保勝会(観光協会の前身)が景観向上のために、この石灯籠を作りました。現在では大浦海岸のシンボルとなっており、美しい景観を醸し出す要因となっています。



上写真 石灯籠近景。
下写真 石灯籠遠景。



12 おおうら・なべたがいがん 大浦・鍋田海岸

鍋田浜の青く透き通った海や白い砂浜はもちろんですが、それ以外にも大浦海岸の穏やかさと狼煙崎の岩肌の荒々しさが一度に味わえる場所です。地域住民等も海岸清掃を行っていて、自然の多い美しい景観を守ろうとする気持ちをうかがい知ることができます。



上写真 海岸から鍋田海岸を望む。
下写真 大浦海岸遠景。



14 のろしざき もやいいし 狼煙崎 舐い石

江戸時代、この大浦には海の関所である御番所があったため、たくさんの船を係留する必要がありました。そこで、自然の岩を削って穴を開け、この穴に縄を通し、船を係留していました。鍋田浜から狼煙崎にかけての海岸には40カ所以上の舐い石が確認できます。※岩礁地帯のため、狼煙崎の先端まで行く際には十分に気を付ける必要があります。



上写真 舐い石近景。
下写真 舐い石遠景。

